

実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	49
学校名	富山県立となみ東支援学校

学校の現状と課題	本校の児童生徒は、砺波学園に入所し、多くが長期間の療育を受けている。そのため、生活経験が乏しく、日常生活の中で未経験な事柄が多くある。学校教育目標である「自分のもつ力を発揮し、豊かに生活する人間を育成する」の具現化に向けて、地域社会の協力を得ながら教育活動の充実を図り、豊かな社会生活を送る素地を養うことが必要であると思われる。
テーマ(特色)	地域資源・人材を活用した学習活動の充実
設定した「テーマ」の達成状況	地域資源として砺波市福山地区に窯元を構える越中三助焼、地域人材として砺波市在住の書人会師範を活用した。陶芸作家、書道師範を講師として招き、教職員への教材研究のための指導(陶芸のみ)及び児童生徒への指導、活動実践を計画的に進めて、学習活動の充実を図ることができた。
実施内容 (具体的に記入する)	①地域資源(越中三助焼窯元)の活用…小中学部児童生徒対象 ・5、6月、小学部の図画工作「粘土で作ろう」、中学部の美術「彫塑」の時間に、児童生徒が越中三助焼や陶芸について学習したりオープン陶土を使って制作活動を行ったりした。 ・6月、陶芸作家を講師として招いて教員が教材研究を行い、越中三助焼や陶芸について、また、児童生徒の指導方法について研修した。 ・6、7月、講師を3回招いて、教材研究時に作成された見本用の作品等を参考に児童生徒が制作活動(手びねり、絵付け)を行った。 ・10月、児童生徒が制作した作品を学習発表会で展示した。 ・11月、中学部の生活単元学習「砺波市について知ろう」の時間に工房に行き、工房を見学したり陶芸作家に質問をしたりして地域の産業について学習した。 ②地域人材(書人会師範)の活用…小学部高学年児童及び中学部生徒対象 ・12月、国語の時間に、講師を2回招いて、毛筆書写における道具の正しい使い方等について学習したり書字活動を行ったりした。児童生徒が制作した作品を廊下の掲示板に掲示した。
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	・児童生徒が図画工作・美術や国語などの授業で学ぶことを基に活動を設定し、事前指導の後に計画的に取組を進めたことで、越中三助焼(地域の産業)や陶芸、書道に関する知識や技能を身に付けながら見通しをもって主体的かつ意欲的に学習に取り組む姿が見られた。 ・教員と打合せをした講師が、児童生徒の実態を考慮して、教示や、手本や道具等の提示などを行った。教員の教材研究を含め、講師の協力を得て指導・支援したことで、児童生徒の興味・関心が高まり、よく見たり試したり工夫したりして学ぶ姿が見られた。 ・慣れ親しんだ教室で少人数で活動できるようにしたことで、児童生徒は、陶芸や書道の楽しさを感じながら作品の完成を目指し、最後まで安心して活動に取り組むことができた。児童生徒が講師と自然に関わる姿も見られ、コミュニケーション能力や社会性を育む機会にもなった。 ・日常生活の中で未経験な事柄が多い児童生徒が、地域社会の協力を得て多様な経験を積むことができた。豊かな社会生活を送る素地を養う機会になったと考える。
対象者(学年・人数など)	児童生徒10名、教職員14名
実施実績	4月 学部別検討会で対象事業の選定
	5月 環境整備に向けた教材の購入計画立案
	6月 ①児童生徒の制作活動、①教材研究、①児童生徒の活動実践(手びねり1回目、2回目)
	7月 ①児童生徒の活動実践(絵付け)
	8月
	9月
	10月 ①学習発表会での作品展示
	11月 ①地域の産業についての学習(中学部生徒)
	12月 ②児童生徒(小学部普通学級児童、中学部生徒)の活動実践(2回)
	1月 ②作品掲示
	2月 活動の振り返り・まとめ
	3月